

A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 講義と臨床実習との一体化実施によるチーム医療の実現

平成 17 年 3 月に旧東京専売病院を承継し、附属三田病院として東京地区における臨床実習施設の充実を図るとともに、平成 19 年 2 月には関連病院であった国際医療福祉病院を附属病院として承継（国際医療福祉大学病院）し、更なる臨床実習施設の充実を図った。

2. 既設の医療福祉系学部との共通カリキュラムによる医療人としての教育

共通科目において、「生命倫理」「医学／医療史」等の医療人としての基本的な心構えを、既存の学部生と共通に学ぶ機会を設けた他、「リハビリテーション概論」「日本手話Ⅰ、Ⅱ」等の、既存の薬学部では学ぶ機会が少ないような科目も共に学ぶことにより、チーム医療のスタッフの一員としての位置づけを学ばせることができた。

3. 国際人として、コミュニケーション能力を養う

既存学部生対象に、平成 17 年度から開講した「国内体験留学授業」は、国内にある英語学習のための研修施設を利用した集中授業であるが、平成 17 年度の薬学部 1 年次生にも履修できるようにした。

これは、英語のみを話す環境で、学生が工夫してコミュニケーション能力を養い、また国際人としての英会話能力を身につけるとの狙いをもつ。

平成 17 年度は全体で 30 名、平成 18 年度は 15 名の参加を得た。

4. チューター制の導入

平成 17 本年度は初年度ということもあり、教職員スタッフが十分でないところであるが、1 クラス 16 名を教職員 2 人がペアとなり、担任制をひき、学生生活全般を含めた細かい制度をひく。同一授業を 2 回休んだ学生に対しては、直接事情を聴く等の具体策をたてている。

平成 18 年度以降はスタッフも増え、17 年度同様クラス担当を決め、学生生活上の相談等に対応している。また、学年制をもひき、各学年主任を頂点として、クラスからの状況をまとめるようにしている。

5. 学内実習施設の充実

本学薬学部棟 3 階に設置した模擬病院・保険薬局施設では、フロアを 5 つのゾーン（院内薬局ゾーン、調剤薬局ゾーン、製剤ゾーン、情報ゾーン、診療ゾーン）に構成し、学生がどの病院・保険薬局に実習に行っても対応できる設備を整え、既に 1 年次から実習施設における学生のイメージを膨らませるのに役立っている。

6. 入学者選抜における工夫

1年目から社会人入試も積極的に採り入れ、初年度7名、平成19年度2名の社会人入学者を迎え入れた。

また、平成18年度入試からは外国人留学生入試も採用し、平成18年度1名、平成19年度1名の留学生を迎え入れた。受入れに当たっては、入学前に教務委員が面接し、事前学習を行い、さらに入学後も特に薬学に必要な専門用語等の日本語も個別に指導している。

